

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	衛生管理	必修	60	2		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	公衆衛生の意義、予防衛生、保健衛生、環境衛生、特に美容業務上で必要不可欠な衛生知識などについてテキストに沿って教授すると共に、その時点における社会の動きなどについても教授する。								
学習的	公衆衛生関係の社会常識、特に最新の情勢についての知識を習得								
教科書	日本理容美容教育センター「衛生管理」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	公衆衛生の概要	公衆衛生の意義を学び、我が国の公衆衛生を知る。	
第2回	公衆衛生の具体的な課題と領域	公衆衛生を知り、出生率、死亡率、乳児死亡率、平均寿命。	
第3回	理容師・美容師と公衆衛生	歴史にみる理容美容と公衆衛生。保健所の役割を知る。	
第4回	予防医学と保健	予防医学の目的と意義を知る。母子保健と統計について学ぶ。	
第5回	成人、高齢者保険	生活習慣病とその対策を知り、健康日本21の概要を理解させる。	
第6回	医療介護の制度	日本の医療、保険制度について理解する。	
第7回	環境衛生を学習する目的	環境の自然や人々の健康に及ぼす影響を知る。	
第8回	環境衛生	家庭、学校、事業所、営業施設、公共団体による公衆衛生。	
第9回	空気、水、日光	空気、温度、湿度、気流、水と健康。	
第10回	住居の衛生	採光、照明、換気の役割を知る。上下水道と廃棄物を理解する。	
第11回	衛生害虫とネズミ	衛生害虫の被害や駆除の方法を知る。公害についての理解を深める。	
第12回	理容所・美容所の環境衛生	不特定多数が入り出す環境を知り、管理能力を高める。	
第13回	実習室の衛生状態を確認	温度、湿度、換気、照明、器具類の管理。	
第14回	感染症の総論	感染症の発見や人物を理解する。	
第15回	感染症と法律	感染症の制定や分類を学ぶ。	
第16回	感染症を学習する目的	客、従業員を通しての感染症伝播の危険性を知る。	
第17回	感染症の種類	感染症の3つの分類を知り、感染症の種類を覚える。	
第18回	病原微生物	病原微生物の種類と形と大きさ構造を知る。	
第19回	微生物の増殖と環境の影響	細菌の増殖と環境の影響を理解する。	
第20回	感染症の予防	微生物の病原性と汚染、感染及び発病について学ぶ。	
第21回	常在細菌叢	人体の常在細菌叢を知る。	
第22回	免疫と予防接種	先天免疫、後天免疫、予防接種、ワクチンを知る。	
第23回	感染症発生の要因	感染源、感染経路、宿主の感受性。感染症の3大要因。	
第24回	感染症予防の3原則	感染源、感染経路、宿主の感受性に対する対策。	
第25回	感染症の予防 まとめ	汚染、感染、発病を理解させる。免疫と予防接種を学ぶ。	

第26回	感染症の概要	理容、美容と感染症。一類感染症を知る。	
第27回	二類感染症、三類感染症	二類感染症、三類感染症を知る。病原体、感染源、感染経路。	
第28回	四類感染症、五類感染症	四類感染症、五類感染症を知る。病原体、感染源、感染経路。	
第29回	新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ、予防接種法で規定されている感染症。	
第30回	感染症の概要 まとめ	感染症の病名、種別、病原体、性格を復習する。	

到達目標	・ 理容師・美容師国家試験(衛生管理)合格レベルの知識習得 ・ 理容師・美容師の社会的責任・職業倫理への理解		
成績評価	期末試験 単位認定60点以上		
備考			

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	保健	必修	60	2		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	人体の構造(解剖学)と機能(生理学)について具体的な知識を持つ。								
学習的	人体の構造、機能に関する科学的系統的知識を理容・美容技術と関連づけて学ばせる。								
教科書	日本理容美容教育センター「保健」								

授業計画			
回	主題	授業内容	備考
第1回	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	人体各部の名所	
第2回		頭部、顔部、頸部の体表解剖学	
第3回	骨格器系	骨の種類と構造／骨の連結	
第4回		骨格器系とそのはたらき	
第5回	筋系	筋の種類とその特徴	
第6回		表情筋と表情運動	
第7回	神経系	神経系の成り立ち	
第8回		中枢神経とそのはたらき／末梢神経とそのはたらき	
第9回	感覚器系	視覚、聴覚、平衡感覚	
第10回		味覚、嗅覚	
第11回		皮膚感覚	
第12回	血液・循環器系	血液のあらまし	
第13回		血液循環の仕組み／血液の循環経路	
第14回		心臓と血管のはたらき／リンパ管系の仕組みとはたらき	
第15回	呼吸器系	呼吸器系のあらまし／気道	
第16回		肺の仕組みとガス交換／呼吸運動	
第17回	消化器系	消化器系のあらまし／気道	
第18回		肺の仕組みとガス交換／呼吸運動	
第19回	皮膚の構造	皮膚の表面／皮膚の断面	
第20回		表皮	
第21回		表皮と真皮の境／真皮	
第22回		皮下組織／皮膚の部位差	
第23回	皮膚付属器官の構造	毛／脂腺	
第24回		汗腺／爪	
第25回	皮膚の循環器系と神経系	皮膚の血管	
第26回		皮膚のリンパ管／皮膚の神経	

第27回	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	体外保護作用／体温調節作用	
第28回		知覚作用と皮膚反射／分泌排泄作用	
第29回		呼吸作用／吸収作用	
第30回		さ貯蔵作用/免疫・解毒・排泄作用／再生作用	

到達目標	1. 理容師・美容師国家試験(保健)合格レベルの知識習得
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	香粧品化学	必修	60	2		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	学科及び実技としての香粧品化学を理解できるように授業を進める。また、「衛生管理」、「保健」「理容・美容技術理論」など、他教科との関連性を付ける。								
学習的	理容師・美容師として重要な意義をもつ「香粧品化学の理解と応用能力」を身に付けさせる。								
教科書	日本理容美容教育センター「香粧品化学」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	香粧品化学を理解するための基礎化学	物質の構成成分について、溶解とコロイド、酸化・還元反応等の復習	
第2回	香粧品概論	香粧品の社会的意義と品質特性	
第3回		香粧品の規制	
第4回		香粧品の安定性と取り扱い上の注意	
第5回		香粧品と安全性	
第6回		香粧品用原料	香粧品の対象となる人体各部の性状
第7回	水性原料		
第8回	油性原料		
第9回	界面活性剤		
第10回	高分子化合物		
第11回	色材		
第12回	香料		
第13回	その他の配合成分		
第14回	ネイル、まつ毛エクステンション用材料		
第15回	香粧品まとめ I		香粧品化学の国家試験(筆記)対策問題練習
第16回	基礎香粧品	皮膚洗浄用香粧品	
第17回		化粧水	
第18回		クリーム・乳液	
第18回		その他の基礎香粧品	
第20回	メイクアップ用香粧品	メイクアップ用香粧品の種類と剤形	
第21回		ベースメイクアップ香粧品	
第21回		ポイントメイクアップ香粧品	
第23回	頭皮・毛髪用香粧品	シャンプー剤	
第24回		スタイリング剤	
第25回		パーマ剤	
第26回		ヘアカラー製品	
第27回		育毛剤	

第28回	芳香製品と特殊化粧品	芳香製品	
第29回		特殊化粧品	
第30回	化粧品まとめⅡ	化粧品化学の国家試験(筆記)対策問題練習	

到達目標	1. 理容師・美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 人の生体の成分に化学変化を与える化粧品の基本知識を習得し、その危険性について認識する 3. 化粧品化学の知識・理解を深め美容の専門家への道を拓く
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	文化論	必修	60	2		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	「日本」「西洋」の髪型、メイク、ファッションの歴史を学び、現代にどのように受け継がれ活かされているかを学ぶ								
学習的	理容・美容の文化史を学び「ファッション」について考え、コミュニケーションのツールと共に歴史を学ぶ								
教科書	日本理容美容教育センター「文化論」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	総論	理容・美容の語義、現代社会、文化史、造形要素、仕事	
第2回	日本の理容業・美容業の歴史	理容業・美容業の発生	
第3回		江戸時代の理容業・美容業	
第4回		近代の理容業・美容業	
第5回		現代の理容業・美容業	
第6回		日本の理容業・美容業の歴史の歴史年表	
第7回		ファッション文化史 日本編	縄文、弥生、古墳時代
第8回	古代(飛鳥、奈良、平安時代)		
第9回	中世(平安末、鎌倉、室町、戦国時代)		
第10回	近世Ⅰ(戦国末、安土桃山時代)		
第11回	近世Ⅱ(江戸時代)		
第12回	近代(明治、大正、昭和20年まで)		
第13回	現代Ⅰ(1945年～1950年代)現代Ⅱ(1960年～1970年代)		
第14回	現代Ⅲ(1980年～1990年代)現代Ⅳ(2000年代以降)		
第15回	文化論まとめⅠ	文化論の国家試験(筆記)対策問題練習	
第16回	ファッション文化史 西洋編	古代エジプト	
第17回		古代ギリシャ・ローマ	
第18回		古代ゲルマン	
第19回		中世ヨーロッパ	
第20回		近世Ⅰ(16世紀)	
第21回		近世Ⅱ(17世紀)近世Ⅲ(18世紀)	
第22回		近代Ⅰ(18世紀末～19世紀初め)近代Ⅱ(19世紀)	
第23回		現代Ⅰ(1910年～1920年代)現代Ⅱ(19130年～1940年代前半)	
第24回		現代Ⅲ(1940年後半～1950年代)現代Ⅳ(1960年代)	
第25回		現代Ⅴ(1970年代)現代Ⅵ(1980年代)	
第26回		現代Ⅶ(19690年～2010年代)	

第27回	婚礼の種類	和装の婚礼	
第28回		洋装の婚礼	
第29回		ファッション文化史年表	
第30回	文化論まとめⅡ	文化論の国家試験(筆記)対策問題練習	

到達目標	理容・美容文化史の移り変わりを知り、お客様にフッションについてアドバイスができる
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	理容技術理論	必修	80	2.7	○	講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	理容師としての心構え、理容技術の基礎理論を学び、理容技術の理解を高めて理容実習につなげていく。								
学習的	科学的根拠をもとに理論を理解することで、より良い技術と心構えを持ちお客様に提供できる理容師をめざす。								
教科書	日本理容美容教育センター「理容技術理論」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	序章	理容技術理論を学ぶにあたって(理容技術)	
第2回	理容技術の基礎	人体各部の名称・技術姿勢・トレーニング	
第3回	理容と用具	理容用具・理容用具と衛生	
第4回		理容刃物	
第5回		シザーズ	
第6回		レザー	
第7回		クリッパー	
第8回		コーム	
第9回		ブラシ	
第10回		ヘアアイロン	
第11回		ヘアドライヤー	
第12回		理容技術理論まとめⅠ	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習
第13回	ヘアデザイン	ヘアスタイリングとデザイン・ヘアデザインの要素・ヘアスタイル	
第14回	ヘアカッティング	ヘアカッティングを学ぶにあたって・観測法	
第15回		ヘアカッティングの基本原則・ヘアカッティングの一般的手順	
第16回		スタンダードヘアの概要	
第17回		スタンダードヘアの用具の持ち方と操作	
第18回		スタンダードヘアの用具のカット技法	
第18回		スタンダードヘアのスタイル別カットシステム	
第20回		デザインヘア	
第21回		デザインヘアのスタイル別カットシステム	
第21回		デザインヘアカットの一例	
第23回		レディースカットの一例	
第24回	理容技術理論まとめⅡ	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習	
第25回	ヘアセッティング	ヘアセッティングを学ぶにあたって・ヘアセッティングの種類	
第26回		ヘアセッティングの実際	
第27回		レディースヘアのスタイリング	

第28回	パーマメントセット	パーマメントウェービング	
第29回		ワインディング	
第30回		コールドニ浴式パーマメントウェービングの一例	
第31回		アイアニング	
第32回		形状記憶デジタルパーマ	
第33回	理容技術理論まとめⅢ	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習	
第34回	ヘアカラーリング	ヘアカラーリングの歴史	
第35回		色彩の原理	
第36回		染毛剤の種類と原理	
第37回		染毛剤の安全性と取扱上の注意	
第38回		ヘアカラーリング技術のプロセス(おしゃれ染め)(白髪染め)	
第39回		その他の技法	
第40回	理容技術理論まとめⅣ	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習	

到達目標	理容技術は、刃物を使用する機会が多いために正確な理論を身につけて、より良い理容技術の基礎となる理論を学び、正確な技術の習得をめざす。
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	運営管理	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	理容・美容を運営の視点から見えていく。その視点を理解し、よいサービスを実現するため視野を広げる。また、顧客や社会のための仕事を担う責任を理解し、より有能な理容師として活躍するための大きな知恵を身につける。								
学習目的	経営・マネジメントの知識を身につけ、実際に理容師として活躍していく中では、多くの事を具体的に学び、ビジネス感覚を身につけた人材を育成する。								
教科書	日本理容美容教育センター「運営管理」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	経営とは・経営者とは	経営の進め方や経営の原理	
第2回	継続が難しい理由=経営が必要な理由	現在の理美容業はどのような状況なのか	
第3回	経営とは何か？	経営・マネジメントの視点がなぜ必要か	
第4回	人という資源	理容業・美容業と労務管理	
第5回	従業員としての視点から	理容業・美容業と人事管理美容業と社会保障制度労務管理に関する知識	
第6回	サービス・デザイン1	企業の形態・美容業と料金	
第7回	サービス・デザイン2	理容業・美容業と経理、簿記と税務	
第8回	マーケティング1	なぜマーケティングを学ぶのか・マーケティングの基本的な考え方	
第9回	マーケティング2	マーケティング戦略・競争とポジショニング	
第10回	マーケティング3	理容業・美容業のためのマーケティング戦略の立て方	
第11回	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか売上志向から顧客志向へ	
第12回	サービスにおける人の役割	サロンの顧客とはどのようなものかサロンの接客には何が必要か	
第13回	接客の実践1	繁盛店になるための行動を考えてみよう1	
第14回	接客の実践2	繁盛店になるための行動を考えてみよう2	
第15回	接客の実践3	接客におけるトラブル・クレームの対処法や問題点を考える	

到達目標	サロンの経営者としてビジネス・経営の観点から分析できる力を身につけます。また従業員として働く場面や将来みずからが経営者として運営するために役立つ知識とビジネス感覚を養う。
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	理容実習 (カッティング)	必修	150	5	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	カッティング技術の基礎から応用まで幅広く知識を習得し卒業後、即戦力として活躍できる人材を育成する。								
学習目的	勢をしっかりと覚えてから、順序を覚える。 その後、時間を短縮して国家試験や営業で使える技術を身につける。								
教科書	日本理容美容教育センター「実技課題集」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	ハサミの使い方・扱い方法①	用具(シザーズとコーム)の名称を覚える	
第2回	ハサミの使い方・扱い方法②	シザーズとコームの操作を学ぶことで、安定したカットが出来るように指導する	
第3回	基本姿勢と姿勢の変化	足を開く順番と、姿勢の作り方と位置をしっかりと覚え、安定した姿勢を作ることで、正確なカットが出来ることを教える	
第4回	ハサミを使って実践カット	新聞紙を均等にカットが出来るように切って実習を行う	
第5回	コームの持ち方・使い方	固定刈り・連続刈り・すくい刈り・指間刈りを覚える	
第6回	ミディアムヘア実践1	所定の場所にセッティングが出来ているかまたは、器具、用具が清潔かの確認(衛生状況)	
第7回	ミディアムヘア実践2	頭を中心に、各部位の移動の仕方とそれぞれの姿勢の確認。各部位に対して、各1時間をかける	
第8回	ミディアムヘア実践3	仕上げのウイッグを見せて、カットする長さをイメージをし、固定刈り、連続刈り、すくい刈りの位置と方向を実際に行う	
第9回	ミディアムヘア実践4	固定刈りの起こす角度、連続刈りのコームの入れ方、すくい刈りの引き出し方の確認をする	
第10回	ミディアムヘア実践5	前回のバックのカットを繰り返した後、サイドの仕方を教える	
第11回	ミディアムヘア実践6	指間刈りの位置と方向を実際に見せ、引き出す角度を教える	
第12回	ミディアムヘア実践7	クリッパーをしっかりと入れることで、その後の作業(固定刈り・ぼかし)が時間短縮につながるのを、しっかりと覚える	
第13回	ミディアムヘア実践8	クリッパーをしっかりと入れることで、その後の作業(固定刈り・ぼかし)が時間短縮につながるのを、しっかりと覚える	
第14回	ミディアムヘア実践9	仕上げ刈りのコームの入れ方のチェック確認	
第15回	ミディアムヘア実践10	ぼかしのコームの入れ方・使い方・角度の確認をする	
第16回	ミディアムヘア実践11	基礎刈り・仕上げ刈り・ぼかし全体の確認	
第17回	ミディアムヘア実践12	週1ペースでカットの進み具合を確認して、実技検定試験(40分)に臨む	
第18回	デザインヘア	持ち方と操作	
第19回	ブロッキング方法1	ブロッキングの取り方、使い方	
第20回	ブロッキング方法2	ブロッキングの取り方、使い方	
第21回	デザインカットの基礎	ヘアデザインやヘアスタイルのカット方法を勉強する	
第22回	ワンレングスカット1	バック・バックサイドのカット方法の切り方・角度の確認	
第23回	ワンレングスカット2	サイド・フロントのカット方法の切り方・角度の確認	
第24回	ワンレングスカット3	全体の仕上がりの確認	

第25回	レイヤーカット1	バック・バックサイドのカット方法の切り方・角度の確認	
第26回	レイヤーカット2	サイド・フロントのカット方法の切り方・角度の確認	
第27回	レイヤーカット3	全体の仕上がりの確認	
第28回	グラデーションカット1	バック・バックサイドのカット方法の切り方・角度の確認	
第29回	グラデーションカット2	サイド・フロントのカット方法の切り方・角度の確認	
第30回	グラデーションカット3	全体の仕上がりの確認	
第31回	スクエアカット1	バック・バックサイドのカット方法の切り方・角度の確認	
第32回	スクエアカット2	サイド・フロントのカット方法の切り方・角度の確認	
第33回	スクエアカット3	全体の仕上がりの確認	
第34回	デザインカットまとめ	デザインカットのカット方法・総合まとめ	
第35回 ┆ 第39回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上げ確認・改善点修正	
第40回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上げ確認・実技検定試験(35分)	
第41回 ┆ 第49回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上げ確認・改善点修正	
第50回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上げ確認・実技検定試験(30分)	

到達目標	国家試験実技カッティングならびに基礎カット技術を身につけ資格取得を目指す。
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	理容実習 (ワインディング)	必修	45	1.5	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	構成・スタイル・形・タイム管理をしっかり習得する								
学習的	1. 巻き方を覚える 2. 時間短縮をする 3. きれいに巻く								
教科書	日本理容美容教育センター「理容実習」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	ワインディングの原理	ワインディングの基礎知識と原理について	
第2回	使用用具類の名所・使い方	各種道具類の持ち方・使い方・各部の名所の確認	
第3回			
第4回	ブロッキングの方法	巻きやすいようにウィッグをブロッキングをして幅の取り方、ゴムの掛け方に注意し指導する	
第5回	ワインディング	ロッドを巻きスライス・ステム・テンション・ゴムのねじれに注意	
第6回		アップステム、ステム、ダウンステム	
第7回		アップステム、ステム、ダウンステム	
第8回		左右の色彩がそろっているか	
第9回		左右の色彩がそろっているか	
第10回		左右の色彩がそろっているか(期末試験50分)	
第11回		巻き方の確認。スライス・ステム・テンション・ゴムのねじれ	
第12回		巻き方の確認。スライス・ステム・テンション・ゴムのねじれ	
第13回		巻き方の確認。スライス・ステム・テンション・ゴムのねじれ	
第14回		巻き方の確認。スライス・ステム・テンション・ゴムのねじれ	
第15回		巻き方の確認。スライス・ステム・テンション・ゴムのねじれ・左右の色彩がそろっているか(期末試験40分)	

到達目標	構成と正確さをしっかり身に付けて2学年に進む
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	理容実習 (シェービング)	必修	90	3	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	国家試験の実技課題となるシェービングは理容独自の技術であり、必須な授業となる。また、メンズシェービングの他にレディースシェービングなど幅広い技術の習得を目指してもらう。								
学習的	理容特有のシェービングを基礎から学び安全な刃物の扱い方などを実習し、就職後に即戦力としてできるようにする。								
教科書	日本理容美容教育センター「実技課題集」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	道具の各部の名所	使用する道具の確認・名所の確認	
第2回	道具の持ち方	レザールの持ち方・使い方(フリーハンド・バックハンド・フッシュハンド)	
第3回			
第4回	レザールの使い方①	フリーハンドと添え手の方法	
第5回			
第6回	レザールの使い方②	バックハンドと添え手の方法	
第7回			
第8回	レザールの使い方③	プッシュハンドと添え手の方法	
第9回			
第10回	ラザールリングとブラシ	シェービングブラシの使い方と手首の使い方	
第11回	泡の塗布方法	顔面に泡を乗せて操作をする(手関節運動)	
第12回	メンズフェイスシェービング①	ウイッグを使いメンズシェービングの運行・スピードの確認	
第13回			
第14回	メンズフェイスシェービング②	ウイッグを使いメンズシェービングの運行・スピードの確認(実技試験)	
第15回 ～ 第17回	メンズフェイスシェービング③	ウイッグを使いメンズシェービングの姿勢・レザールの角度の確認	
第18回	メンズネックシェービング①	耳周りに注意しながら刃を立てないように練習を行う(右側面)	
第19回	メンズネックシェービング②	耳周りに注意しながら刃を立てないように練習を行う(左側面)(実技試験)	
第20回	フェイシャルトリートメント①	タオルの基本的な持ち方・作業姿勢・作業位置	
第21回			
第22回	フェイシャルトリートメント②	てん包法(スチームタオル)を使用し、順序・姿勢の確認を行う	
第23回			
第24回	フェイシャルトリートメント③	清拭法(顔面の拭き取り作業で順序・姿勢)の確認を行う	
第25回			
第26回	フェイシャルトリートメント④	クリームマッサージの塗布方法・マッサージの順番・姿勢の確認を行う	
第27回			
第28回	フェイシャルトリートメント⑤	クリーム拭き取りの方法・順番・姿勢の確認を行う	
第29回	フェイシャルトリートメント⑥	クリーム拭き取りの方法・順番・姿勢の確認を行う(実技試験)	

第30回	1年間のまとめ	シェービング方法・マッサージ方法・拭き取り方法の確認 (期末実技試験)	
------	---------	--	--

到達目標	1. 理美容師国家試験(実技試験)合格レベルの知識習得 2. 理容技術への理解		
成績評価	期末試験 単位認定60点以上		
備考			

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	特別教育授業	選択	60	2		講義	演習	実習実技
							○	○	
授業の概要	理容・美容の現場で活用できる外国語やヘアデザインに必要なデッサン・ヘアスタイル画の描き方の習得、身体機能や運動機能を学ぶ体育活動を通して幅広い知識を学ぶ。								
学習目的	理容・美容の現場で増えつつある、外国人のお客様へのコミュニケーションの習得やお客様からの要望を叶えるためのデッサン力の習得、また体育活動を通して幅広い知識を学ぶ。								
教科書	日本理容美容教育センター「外国語」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	外国語	自分について話そう(好き・嫌い)	
第2回		あいさつ(英語の時制)	
第3回		お客様を迎える(丁寧表現)	
第4回		電話での接客(電話の英語)	
第5回		コンサルテーション(髪質の表現)	
第6回		シャンプー&トリートメント(英語の発音)	
第7回		ヘアカット(カットの技術)	
第8回		パーマ(現在完了形)	
第9回		ヘアカラー(色彩の表現)	
第10回		仕上げ(長さや温度)	
第11回		お会計(チップの基本)	
第12回		クレーム対応(混乱を避ける)	
第13回		海外研修旅行(街での英語)	
第14回		サロンの現場から(メイクアップ・ネイルケア・シェービングと衛生・和装着付けと写真撮影)	
第15回		理容師・美容師のための「和英表現集」	
第17回 ～ 第18回		体育	炊事遠足、スポーツ等を通してチームワーク、コミュニケーション能力を養う
第20回 ～ 第21回	球技、運動を通してチームワーク、コミュニケーション能力を養う		
第23回 ～ 第25回	校内技術大会等を通して技術の向上、競争力を養う		
第26回	美術	鉛筆の持ち方、グラデーションの表現	
第27回		球体、円柱を描く	
第28回		顔のパーツを描く	
第29回		雑誌等のモデルの模写	
第30回		雑誌等のモデルの模写	

到達目標	海外研修旅行での英会話でのコミュニケーション能力の習得とヘアデザイン画の作成
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	スペシャル授業	選択	40	1.3		講義	演習	実習実技
								○	
授業の概要	理容師・美容師の技術で身だしなみを整えQOLの向上に繋げ、お客様の尊厳を守り、その人らしさを出し、生活の支えになるように心がける。								
学習目的	理容室・美容室に来店が難しい方への訪問サービスを提供する。								
教科書	日本理美容福祉協会・福祉理美容士養成講座 テキスト1・2 及び								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
【福祉理美容】			
第1回	福祉の基本的理論・社会福祉制度／高齢者福祉制度	福祉とは／ノーマライゼーション／高齢者福祉制度の概要／介護保険制度／地域包括ケアシステム／高齢者に関わる職種	
第2回	障がい者福祉制度／その他の制度	障がい者福祉制度の概要／地域生活支援事業／医療保険制度／児童福祉制度	
第3回	福祉理容とは／訪問理容の現状	福祉理美容とは／福祉理容士・福祉美容士としての職業倫理／福祉理美容の基本理念／訪問理容対象のお客様を取り巻く環境	
第4回	訪問時の基本的留意点／福祉理容のリスクマネジメント	お客様の状況に応じた個別対応／訪問理容を行う事前準備／訪問先での注意点／お客様への配慮／福祉理容現場のリスクとは／リスクマネジメント	
第5回	障がい・病気と認知症の理解／障がい・病気の種類と留意点	障がいと病気への理解／加齢に伴うからだところの変化／高齢のお客様のこころからだ／障がいのあるお客様の留意点／障がいの種類／特定し疾病について	
第6回	認知高齢者の理解と対応／医療の基本的理解と感染・消毒について	認知症とは／認知症の種類と特徴／認知症の方への対応／医学と医療／健康と病気	
第7回	感染と予防策／ターミナルケア	感染／感染症について／免疫・自己免疫／消毒の方法／バイタルサイン／ターミナルケアとは／福祉理容師の役割	
第8回	感染と予防策	正しい手洗いの仕方。チェッカーマシンできちんと洗われているかを確認する。	
第9回	衣服の着脱	お客様から熱い、寒いなど言われた場合の借脱方法を知る	
第10回	杖歩行の介助	杖が使われているお客様がどのように歩行されているのかを学ぶ	
第11回	視覚障害者の介助	理容・美容現場においてお客様を施術場所に誘導する	
第12回	車いすの扱い方	車いすで理容・美容サービスを行えるように車いすの名称・扱い方の基本と知識を身に付ける	
第13回	移動シャンプー	移動式を正しく行えるように手順を覚える。極力、水を最小限に抑える	
第14回			
第15回	試験対策	練習問題を行い試験範囲を学習する	
【着付け】			
第1回	着物・帯の種類・小物	名称を覚える。TPOに合わせる	
第2回	着物のたたみ方	本たたみ・夜具たたみ・長襦袢のたたみかた	
第3回 ～ 第5回	着付けの一般的要領	着物の着付け方、帯の結び方等、年齢・体型を考慮して着付けを行う	

到達目標	【福祉理美容】日本理美容福祉協会・福祉理美容士養成講座 テキスト1・2 筆記試験合格基準に到達する。 【着付け】体の線をいかし、上品に年齢に応じた着付けをする。
成績評価	【福祉理美容】日本理美容福祉協会「準福祉理美容士検定試験」習得を目指す。 【着付け】単位認定 課題提出
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	ネイル技術	選択	60	2	○	講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	ネイルの基礎知識・ネイルケア・カラーリング・ジェルネイル、アート								
学習的	ネイル技能と知識の基礎を習得し、日本ネイリスト検定試験センター「ジェルネイル検定初級」の技能を身につける								
教科書	日本ネイリスト協会テキスト参照								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	ネイル理論	爪の構造・爪の形と整え方	
第2回		ネイルケアの使用用具の説明	
第3回	ネイルケアの使用用具	用具の確認・消毒法	
第4回		テーブルセッティング	
第5回 ～ 第9回	ネイルケアの基礎	テーブルセッティング・消毒・ファイル・キューティクルクリーン	
第10回	ネイルケアチェック	テーブルセッティング・消毒・ファイル・キューティクルクリーンのチェック	
第11回 ～ 第13回	ネイルケアの基礎	ポリッシュの塗り方・オフ	
第14回 ～ 第17回	ネイルケアの基礎	ジェルの下準備・ジェルの塗り方・ジェルのオフ	
第18回 ～ 第22回	ネイルケアの基礎	ジェルデザイン(ピーコック・鼈甲柄・ドロップネイル、ターコイズネイル等)	
第23回	ネイルケアチェック	デザインチェック	
第24回 ～ 第29回	ジェルネイル基礎	ジェルネイル検定初級の技能習得	
第30回	ネイルケアチェック	ジェルネイル検定初級の技能チェック	

到達目標	日本ネイリスト検定試験センター「ジェルネイル検定初級」の技能習得を目指す
成績評価	単位認定 課題提出
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	エステティック技術	選択	60	2	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	エステティックの歴史を学ぶとともに、美しさを顔や身体に施してあげて心身ともにリラックスや癒しなどを与える。								
学習的	エステティックを行う上で、相手を気遣いなおかつ自分自身をも満足させ楽しく実習する。								
教科書	日本理容美容教育センター「理容理論Ⅱ」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	エステティック概論	エステティックの歴史・心得を学ぶ	
第2回	皮膚の生理と構造	皮膚の構造や状態を学ぶ	
第3回	皮膚の構造	表皮・真皮・皮下組織をもっと深く学ぶ	
第4回	カウンセリング	カウンセリングの重要性を学ぶ	
第5回	カウンセリング	相モデルでカウンセラーとクライアントになって練習	
第6回	カウンセリング	学生間変更カウンセリング チェックシートを作成	
第7回	スキンチェック	肌質の種類と特徴を勉強する	
第8回	マッサージ	基本手技7種類の勉強する	
第9回	マッサージ ウィッグにて	ウィッグを使ってマッサージの練習	
第10回	マッサージ 相モデル	相モデルでマッサージの練習	
第11回	マッサージ 相モデル	相モデルで順番・力加減を確認しながら練習	
第12回	フェイシャルケア技術	目的・効果・方法などを勉強する。	
第13回	クレンジング	手順確認後、相モデルで練習	
第14回	ディープ・クレンジング	手順確認後、相モデルで練習	
第15回	フェイシャルマッサージ	手順確認後、相モデルで練習	
第11回	フェイシャルパック	手順確認後、相モデルで練習	
第12回	保湿(美容液・乳液・クリーム)	手順確認後、相モデルで練習	
第13回	クレンジング～保湿までのフェイシャルケア	フェイシャルケア 相モデルでクレンジングから保湿まで練習	
第14回	フェイシャルケア技術 相モデル	反復練習	
第15回	フェイシャルケア及びデコルテ マッサージ	デコルテマッサージの手順の勉強 手の動き方他	
第16回	フェイシャルマッサージ	フェイシャルマッサージにおける手の動かし方と操作ポイント	
第17回	フェイシャルマッサージ 相モデル	フェイシャルマッサージ相モデル練習	
第18回	フェイシャル・パック	フェイシャル・パックの種類・手順の勉強	
第19回	フェイシャル・パック相モデル	フェイシャル・パック手順 相モデル練習	

第20回	フェイシャルマッサージ～フェイシャルパック相モデル	フェイシャルマッサージ～フェイシャルパック相モデル練習	
第21回	ボディケア技術	ボディケア技術の種類と特徴	
第22回	マッサージ法	マッサージ法・温熱法(ヒートトリートメント)・運動法・有酸素運動・筋力トレーニング・ストレッチング	
第23回	マッサージ法 相モデル	マッサージ法・温熱法(ヒートトリートメント)・運動法・有酸素運動・筋力トレーニング・ストレッチングを相モデル	
第24回 5 第26回	フェイシャル・ケア～フェイシャル・マッサージ	前回までの復習	
第27回	ボディマッサージ	ボディマッサージのポイントの勉強	
第28回	ボディマッサージ相モデル	ボディマッサージのポイント相モデル	
第29回	フェイシャルマッサージ～フェイシャルパック相モデル	フェイシャルマッサージ～フェイシャルパック相モデル練習	
第30回	全行程	フェイシャル～ボディまでの総復習	

到達目標	身だしなみの徹底と皮膚の状態の理解や手順をしっかりと覚える。
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	ヘアモード技術	選択	60	2		講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	サロンワークに必要なヘアアレンジで自己表現・自己実現を図り技術や感性を磨き仕事の幅を持たせる。								
学習的	プロとして必要な「ヘアデザインの幅」が大きく広がる。								
教科書	オリジナルテキスト「アップスタイル」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	基本の練習	仕込み／ゴム止め／逆毛／ピニング／仮り止め／すき毛／シェービング／ネット／飾り／道具	
第2回			
第3回	一束	輪ゴム止め／すき毛なし／セパレート／サイドバージョン／ひねり／すき毛あり／すき毛／逆毛あり／ネープバージョン／逆毛土台／逆毛ボリュームバージョン	
第4回			
第5回	夜会	本夜会ゴム止めバージョン／重ね夜会ツーポイントバージョン／重ね夜会ワンポイントバージョン／本夜会ピン止めバージョン／重ね夜会ゼロポイントバージョン／本夜会・逆毛ボリュームバージョン	
第6回			
第7回	サイド	サイドの引きつめ／フロントの引きつめ／サイドのねじり／サイドの返し／フロントの日本髪バージョン	
第8回			
第9回	ボリューム	トップのボリューム／全体のボリューム／トップのラフアレンジバージョン／全体のラフアレンジバージョン	
第10回			
第11回	シニヨン	ワンポイントトップ／バイアスフォワードシニヨンとくずしバージョン／ワンポイントクラウン／リバースシニヨンとくずしバージョン／フォワード巻き込みシニヨン日本髪バージョン／リバース巻き込みシニヨン日本髪バージョン	
第12回			
第13回	カール	ワンポイントトップカールとルーズカール&スパイキーバージョン／ツーポイントカール／ワンポイント右ネープサイドフォワードカール／ワンポイントネープカール／スリーポイントカールリーゼント風	
第14回			
第15回	編みこみ	ロープ編み・表三つ編み・裏三つ編み／ロープ編み・三つ編みくずしバージョン／四つ編み・四つ編みくずしバージョン	
第16回			
第17回 ～ 第19回	パーマネットウェーブ技術	毛髪診断／ロッド」の選定／カットイング／ワインディング／1剤2剤塗布／放置タイム／ロッドアウト／スタイリング／パーマ剤に関する注意事項	
第20回 ～ 第21回	ワインディングバリエーション	巻き方や方向性に変化をあたえてロッドの大きさを変えたり、特殊なロッドを使用してパーマネットウェーブに幅を持たせる。	
第22回 ～ 第30回	ボリューム	トップのボリューム／全体のボリューム／トップのラフアレンジバージョン／全体のラフアレンジバージョン	

到達目標	技術や感性を磨き、基本を習得する。
成績評価	単位認定 課題提出
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	接客・接遇	選択	30	1		講義	演習	実習実技
								○	
授業の概要	社会人に求められる常識的な心得を十分理解させ、マナーに対する知識、態度、技能を身につけさせる。								
学習的	社会人になる前の最終学校として、節度ある学生を育成し、即戦力として活躍できる人材を育てる。								
教科書	オリジナル資料「サロンワーク」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	接客・接遇の知識	接客とは何か、接遇との違いを説明	
第2回	ジョブカフェ(青森県若年者就職支援センター)	就職における仕事理解・進路の進め方	
第3回	サロンでの実習	受付、応対、マナーの練習と実地訓練	
第4回	サロンでの実習	相モデルでの接客訓練	
第5回	赤十字ボランティア清掃活動	地域清掃、登下校通学路	
第6回	赤十字ボランティア青森マラソン	青森マラソン(給水活動)	
第7回 ↓ 第9回	施設でのハンドマッサージ	地域施設での課外授業(ハンドマッサージ)	
第10回 ↓ 第11回	赤十字ボランティア炊き出し訓練	地域赤十字団との合同炊き出し訓練	
第12回	サロンでの実習	受付、応対、マナーの練習と実地訓練	
第13回	サロンでの実習	相モデルでの接客訓練	
第14回	施設でのハンドマッサージ	地域施設での課外授業(ハンドマッサージ)	
第15回	まとめ・総合	接客・接遇・ボランティアのまとめ	

到達目標	マナーや接客業の知識とボランティア活動を通して節度ある人材に育成しているか判断する。
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	総合技術	選択	60	2	○	講義	演習	実習実技
								○	
授業の概要	基本的技術を基に、さらに発展した高度な技術を習得するとともに、最新技術の習得を目指す。集大成としてヘアショーを開催し観客に披露する。								
学習的	高度な技術を習得するとともに、最新技術の習得を目指す。チームでのコミュニケーション、協調性を養う。								
教科書	オリジナル資料「過去のヘアショーの資料、DVD」等								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	メイク①	ヘアショー用舞台メイク・モデルを決めてメディア等で参考資料をそろえる	
第2回	メイク②	ヘアショー用舞台メイク・テーマに沿ったデッサン画を作成	
第3回	メイク③	ヘアショー用舞台メイク・モデルにメイクを施す	
第4回			
第5回	ネイル①	ヘアショー用舞台ネイル・テーマに沿ったデッサン画を作成	
第6回	ネイル②	ヘアショー用舞台ネイル・ネイルチップのファイリング	
第7回	ネイル③	ヘアショー用舞台ネイル・ネイルチップのカラーリング	
第8回			
第9回	セット①	ヘアショー用舞台セット・テーマに沿ったデッサン画を作成	
第10回	セット②	ヘアショー用舞台セット・テーマに沿ったスタイリングの練習	
第11回			
第12回	セット③	ヘアショー用舞台セット・セットの完成	
第13回	カラー①	ヘアショー用舞台カラー・テーマに沿ったカラーリングを決め、ブリーチ等の施術	
第14回			
第15回	カラー②	ヘアショー用舞台カラー・テーマに沿ったカラーリングを施術	
第16回			
第17回	ファッション①	ヘアショー用舞台ファッション・テーマに沿った衣装のデッサン、選定	
第18回			
第19回	ファッション②	ヘアショー用舞台ファッション・テーマに沿った衣装の決定	
第20回			
第21回	振り付け	テーマに合った、ウォーキング等の確認	
第22回	映像、音楽	テーマに沿った、映像、音楽の選定、作成	
第23回			
第24回 ↓ 第26回	舞台	演出、装飾、舞台セット	
第27回	写真	モデルのスチール写真撮影	
第28回 ↓ 第30回	ヘアショー	集大成としてヘアショーを開催し観客に披露	

到達目標	集大成としてヘアショーを開催し観客に披露
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	関係法規・制度	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	理容師・美容師の資格を定めるとともに、理容の業務が適正に行われるように規律し、もって公衆衛生の向上に資することを目的とする。また、理容師・美容師の社会における役割や、職業上、必要な制度について勉強する。								
学習目的	理容師・美容師として必要な国家試験の内容やそれに伴う各行政機関の役割を理解し、社会生活における理容師としての役割について学ぶ。								
教科書	日本理容美容教育センター「関係法規・制度」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	法制度の概要	法が必要とされる理由や特徴・種類など法の役割について学ぶ	
第2回	衛生法規の概要	衛生行政の目的を理解し、国と地方が行なう行政の関係を学ぶ	
第3回	衛生行政の意義と歴史	国民生活の公衆衛生を増進するための衛生行政を理解し、衛生行政のこれまでの歴史と発展および現在の衛生行政の課題を学ぶ	
第4回	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容	衛生行政の種類と、それらを所管する機構と内容について学ぶ	
第5回	理容師法の目的	理容師法・美容師法の考え方、仕組み、規制を理解し、理容師・美容師が適性に理容・美容の業を行うために必要な事を学ぶ	
第6回	理容師法の用語の定義	理容師法・美容師法で特に必要だと思われる用語を学ぶ	
第7回	人(理容師・美容師)に関する規定	理容師・美容師の養成、試験、免許の仕組み、等について学ぶ	
第8回	人(理容師・美容師)に関する規定	理容師・美容師の免許と登録について学ぶ	
第9回	人(理容師・美容師)に関する規定	理容師・美容師が管理業務を行なうときに厳守しなければならない義務について学ぶ	
第10回	施設(理容所・美容所)に関する規定	開設の届出や施設の検査確認、美容所が講ずべき措置等について学ぶ	
第11回	施設(理容所・美容所)に関する規定	理容書・美容所以外での衛生措置について学ぶ	
第12回	違反者に対する行政処分・罰則	違反者に対する罰則や、理容所・美容所に対する処分および罰則について学ぶ	
第13回	理容師法・美容師法のまとめ	理容師法・美容師法の復習・理解	
第14回	関連法規	理容師・美容師及び理容所・美容所を経営する場合に必要な法律について学ぶ	
第15回	関連法規まとめ 理容師・美容師試験	理容師・美容師試験対策	

到達目標	1. 理容師・美容師国家試験(関係法規・制度)合格レベルの知識習得
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	衛生管理	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	消毒法を知り、理学的消毒法、化学的消毒法の特徴を学ぶ。消毒薬の種類と濃度計算式を理解する。清潔保持と清掃の意義を知る。								
学習的	理容所・美容所における適切な消毒薬、消毒法								
教科書	日本理容美容教育センター「衛生管理」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	消毒とは	消毒法の歴史	
第2回	病原微生物と非病原微生物	病原微生物の種類と構造・消毒の原理	
第3回	消毒の意義①	汚染・感染・発病と消毒の意義	
第4回	消毒の意義②	消毒・滅菌・殺菌・防腐の定義	
第5回	理容・美容の業務と消毒との関係	消毒に関連のある法の規定	
第6回	消毒を怠った場合の危険と責任	理容所・美容所で起こりえる感染例・消毒の重要性	
第7回	消毒法と適用上の注意	消毒法の種類・病原微生物の抵抗力	
第8回	消毒法各論・理学的消毒法	紫外線消毒・煮沸消毒・蒸気消毒	
第9回	化学的消毒法	アルコール類の消毒・次亜塩素酸ナトリウム・界面活性剤・逆性石鹼	
第10回	すぐれた消毒法と実施上の注意	消毒法の条件、注意事項	
第11回	消毒法実習	各種消毒薬・消毒薬と希釈液の濃度	
第12回	消毒薬希釈法	各種消毒薬希釈の手順	
第13回	理容所・美容所の消毒の実際	消毒設備・器具の消毒法・消毒の現状	
第14回	理容所・美容所の消毒法の実際	洗剤による清浄法・衛生昆虫の駆除	
第15回	衛生管理技術のまとめ	消毒法と特徴・器具、布片の消毒法・希釈法	

到達目標	・理容師・美容師国家試験(衛生管理)合格レベルの知識習得		・理美容師の社会責任・職儀容倫理への理解
成績評価	期末試験 単位認定60点以上		
備考			

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	保健	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	人体の構造(解剖学)と機能(生理学)について具体的な知識を持つ。								
学習的	皮膚・毛髪などを主とする知識を美容技術と関連づけて学ばせる。								
教科書	日本理容美容教育センター「保健」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	毛のはたらき／爪のはたらき	
第2回	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身状態	
第3回	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と精神／皮膚と栄養／皮膚とし好品	
第4回	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と体内病変／皮膚の水分と脂の状態	
第5回	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚の保護と手入れ／爪の保護と手入れ	
第6回	皮膚と皮膚付属器官の保健	毛の保護と手入れ／爪の保護と手入れ	
第7回	皮膚と皮膚付属器官の保健	子どものおしゃれによる皮膚のトラブル	
第8回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚の異常とその種類／皮膚疾患の原因	
第9回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚疾患の治療法／皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹／口唇の疾患／温熱・寒冷による皮膚疾患	
第10回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	血管腫(アカアザ)／脂腺母斑／下肢静脈瘤	
第11回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	分泌異常による皮膚疾患／化膿菌による皮膚疾患	
第12回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	ウイルスによる皮膚疾患／細菌による皮膚疾患	
第13回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	真菌による皮膚疾患／衛生害虫による皮膚疾患	
第14回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	感染症の皮膚疾患の予防	
第15回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	毛と爪の疾患／皮膚の腫瘍	

到達目標	1. 理容師・美容師国家試験(保健)合格レベルの知識習得
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	理容技術理論	必修	70	2.3	○	講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	理容師としての心構え、理容技術の基礎理論を学び、理容技術の理解を高めて理容実習につなげていく								
学習的	科学的根拠をもとに理論を理解することで、より良い技術と心構えを持ちお客様に提供できる理容師をめざす								
教科書	日本理容美容教育センター「理容技術理論」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	シェービング	シェービングを学ぶにあたって・シェービングの要件	
第2回		シェービングの種類・シェービングの基本技術と要領	
第3回		シェービングプロセス	
第4回		メンズフェイスシェービング	
第5回		メンズネックシェービング	
第6回		グルーミング	
第7回		レディースシェービング	
第8回	理容エステティック	理容エステティックを学ぶにあたって・スキンケア	
第9回		フェイシャルケア	
第10回		ハンドケア	
第11回		フットケア	
第12回		理容アロマセラピー	
第13回	理容技術理論まとめ I	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習	
第14回	理容クリニック	理容クリニックを学ぶにあたって・ヘアクリニックのカウンセリング	
第15回		トリートメント	
第16回		ヘアケアとスカルプケア	
第17回		毛髪の基礎知識・ヘアチェック(毛髪診断)	
第18回		頭皮の基礎知識・スカルプチェック(頭皮診断)	
第18回		ヘアクリニックの用具・ウィッグ	
第20回	理容技術理論まとめ II	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習	
第21回	シャンプーイング & リンシング	シャンプーイング	
第21回		シャンプーイングの方法①	
第23回		シャンプーイングの技法②	
第24回		リンシング	

第25回	理容マッサージ	理容マッサージの意義と効果	
第26回		理容マッサージの意義と効果マニピュレーション	
第27回		ヘッドマッサージの一例	
第28回		クリニックマッサージの一例	
第29回	理容技術理論まとめⅢ	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習	
第30回	ヘアトリートメント	ヘアトリートメントを学ぶにあたって	
第31回		ヘアトリートメントの種類と一例	
第32回	スカルプトリートメント	スカルプトリートメントを学ぶにあたって スカルプトリートメントの種類	
第33回		ベーシックスカルプトリートメントの一例	
第34回	理容技術理論まとめⅣ	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習	
第35回	理容技術理論まとめⅤ	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習	

到達目標	理容技術は、刃物を使用する機会が多いために正確な理論を身につけて、より良い理容技術の基礎となる理論を学び、正確な技術の習得をめざす。
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	理容実習 (カッティング)	必修	150	5	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	カッティング技術の基礎から応用まで幅広く知識を習得し卒業後、即戦力として活躍できる人材を育成する。								
学習目的	勢をしっかりと覚えてから、順序を覚える。 その後、時間を短縮して国家試験や営業で使える技術を身につける。								
教科書	日本理容美容教育センター「実技課題集」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	ミディアムヘア実践12	セニングシザーズの入れ方を覚える	
第2回	ミディアムヘア実践13	セニングシザーズの入れ方を覚える	
第3回	ミディアムヘア実践14	国家試験に準ずるカットが出来ているか(セニング技術込み)	
第4回	ミディアムヘア実践15	国家試験に準ずるカットが出来ているか(セニング技術込み)	
第5回 ↓ 第11回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	
第12回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・実技検定試験(28分)	
第13回 ↓ 第19回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	
第20回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・実技検定試験(25分)	
第21回 ↓ 第26回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	
第27回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・実技検定試験(23分)	
第28回 ↓ 第34回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	
第35回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・実技検定試験(20分)	
第36回 ↓ 第37回	ミディアムヘア(国家試験)	梳きバサミの仕上げ・改善点修正	
第38回 ↓ 第42回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・全体仕上がり確認・実技検定試験	
第43回 ↓ 第46回	ミディアムヘア(国家試験)	実技検定試験カッティング(20分)梳きバサミ(5分)	
第47回 ↓ 第48回	ミディアムヘア(国家試験)	国家試験衛生確認・道具チェック	
第49回 ↓ 第50回	ミディアムヘア(国家試験)	国家試験シミュレーション	

到達目標	国家試験実技カッティングならびに基礎カット技術を身につけ資格取得を目指す。
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	理容実習 (ワインディング)	必修	105	3.5	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	構成・スタイル・形・タイム管理をしっかり習得する								
学習的	1. 巻き方を覚える 2. 時間短縮をする 3. きれいに巻く								
教科書	日本理容美容教育センター「理容実習」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	ワインディング	アップステム、ステム、ダウンステム	
第2回			
第3回 ┆ 第5回		左右の色彩がそろっているか	
第6回 ┆ 第12回		規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	
第13回		規定タイムで手技・仕上がり確認、(期末試験30分)	
第14回 ┆ 第24回		規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	
第25回		規定タイムで手技・仕上がり確認、(期末試験28分)	
第26回 ┆ 第31回		規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	
第32回		規定タイムで手技・仕上がり確認、(期末試験25分)	
第33回 ┆ 第35回		規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	

到達目標	構成と正確さをしっかり身に付けて2学年に進む
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	理容実習 (シェービング)	必修	165	5.5	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	国家試験の実技課題となるシェービングは理容独自の技術であり、必須な授業となる。また、メンズシェービングの他にレディースシェービングなど幅広い技術の習得を目指してもらう。								
学習的	理容特有のシェービングを基礎から学び安全な刃物の扱い方などを実習し、就職後に即戦力としてできるようにする。								
教科書	日本理容美容教育センター「実技課題集」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	シェービング実践1	国家試験の衛生課題を覚える	
第2回	シェービング実践1	国家試験の衛生課題を覚える	
第3回	シェービング実践2	国家試験に準ずるカシェービングが出来ているか	
第4回	シェービング実践3	国家試験に準ずるカシェービングが出来ているか	
第5回	シェービング(国家試験)	国家試験に準ずるカットが出来ているか(セニング技術込み)	
第6回 ～ 第10回	シェービング(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	
第11回	シェービング(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・実技検定試験(25分)	
第12回	レディースシェービング1	ウイッグを使いレディースシェービングの運行・スピードの確認	
第13回	レディースシェービング2	ウイッグを使いレディースシェービングの運行・スピードの確認	
第14回	レディースシェービング3	ウイッグを使いレディースシェービングの運行・スピードの確認(実技試験)	
第15回	レディースシェービング4	ウイッグを使いレディースシェービングの姿勢・レザーの角度の確認	
第16回	レディースシェービング5	ウイッグを使いレディースシェービングの姿勢・レザーの角度の確認	
第17回	レディースシェービング6	ウイッグを使いレディースシェービングの姿勢・レザーの角度の確認	
第18回	レディースシェービング襟剃り7	耳周りに注意しながら刃を立てないように練習を行う(右側面)	
第19回	レディースシェービング襟剃り8	耳周りに注意しながら刃を立てないように練習を行う(左側面)実技試験	
第20回	レディースシェービング9	レディースシェービング総合技術確認	
第21回	レディースシェービング10	レディースシェービングまとめ	
第22回 ～ 第28回	シェービング(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	
第29回	シェービング(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・実技検定試験(20分)	
第30回 ～ 第36回	シェービング(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	
第37回	シェービング(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・実技検定試験(18分)	
第38回 ～ 第44回	シェービング(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	

第45回	シェービング(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・実技検定試験(15分)	
第46回 ↓ 第50回	シェービング(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・改善点修正	
第51回	シェービング(国家試験)	規定タイムで手技・仕上がり確認・実技検定試験(15分)	
第52回	シェービング(国家試験)	国家試験衛生確認・道具チェック	
第53回			
第54回	シェービング(国家試験)	国家試験シミュレーション	
第55回			

到達目標	1. 理美容師国家試験(実技試験)合格レベルの知識習得 2. 理容技術への理解
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	理容実習(カラー)	必修	39	1.3	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る。								
学習的	理容師に必要なデザインカラー技術を習得し就職後も現場で生きる技術を身につける。								
教科書	日本理容美容教育センター「理容実習」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	カラー技術の応用知識を知る	カラーのバリエーション～薬剤選定・スタイルに合わせた技術	
第2回	サロンワンレングスボブ①	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス	
第3回	サロンワンレングスボブ②	カラーをいれる・スタイルに合わせての技法選定	
第4回	ラウンドグラデーションボブ①	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス	
第5回	ラウンドグラデーションボブ②	カラーをいれる・スタイルに合わせての技法選定	
第6回	ミディアムレイヤーカット①	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス	
第7回	ミディアムレイヤーカット②	カラーをいれる・スタイルに合わせての技法選定	
第8回	セクションカット①	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス	
第9回	セクションカット②	カラーをいれる・スタイルに合わせての技法選定	
第10回	マニキュアの発色	カットスタイル～効果的なカラー技術を施す	
第11回	ブリーチ剤の発色	カットスタイル～効果的なカラー技術を施す	
第12回	デザインカラーの発色	カットスタイル～効果的なカラー技術を施す	
第13回	カラー技術の総合まとめ	カットスタイルによるカラーの印象を知る	

到達目標	デザインカラーを理解する→カットスタイルに合わせたカラー技術を施術できる。
成績評価	単位認定 課題提出
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	理容実習 (シャンプーイング)	必修	39	1.3	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	卒業後に即戦力となれるように学習し理解することによって、実技課題の習得を目指す。								
学習的	理容特有の前屈みシャンプーを実習し、理解すること。								
教科書	日本理容美容教育センター「理容実習」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	シャンプー剤の構成成分①	界面活性剤－洗浄作用、汚れをおとす	
第2回	シャンプー剤の構成成分②	コンディショニング成分－きしみをなくす、毛髪保護	
第3回	シャンプー剤の構成成分③	増粘剤－シャンプー液に粘度を出す	
第4回	シャンプー剤の構成成分④	毛髪保護剤、湿潤剤－毛髪保護、補修	
第5回	シャンプー剤の構成成分⑤	香料－製品の特徴づけ 防腐剤－製品の安定化	
第6回	ヘアトリートメント剤の構成成分①	界面活性剤－きしみをなくす、静電気防止	
第7回	ヘアトリートメント剤の構成成分②	油剤－油分補給、増粘効果	
第8回	ウイッグでのシャンプー訓練①	シャンプー剤の塗布・マッサージ	
第9回	ウイッグでのシャンプー訓練②	シャワーヘッドの動かし方・後頭部の洗髪	
第10回	相モデルでのシャンプー訓練①	シャンプー時の指の加減や流すタイミングの確認	
第11回	相モデルでのシャンプー訓練②	シャンプー時の姿勢や安定した体重移動の確認	
第12回	相モデルでのシャンプー訓練③	全体に毛髪が洗えているか・シャンプーマッサージの確認 (技術試験)	
第13回	総合まとめ	シャンプーの一連動作の確認	

到達目標	理容技術理論の基礎がわかり、技術として結びつけることが出来るようになる。
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	理容実習 (デザインヘア/ ブロー・セット)	必修	78	2.6	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	コンテストなどを通して幅広い知識と技術を習得、及びイメージング能力向上を目指す。現役のスタイリストから直接カットを指導してもらい、現場の雰囲気の中で専門的に技術・理論を学習し作品創りのノウハウを知る。								
学習的	作品創りを通して創造性を高めデザイン力を身に付ける。								
教科書	オリジナル教材「コンテスト資料」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
【デザインヘア】			
第1回	カット展開図	カタログなどを用いてスタイル作成	
第2回	セクション(部分)カット	展開図を元に部分のカットをする(バック・バックサイド)	
第3回	セクション(部分)カット	展開図を元に部分のカットをする(サイド・トップ・フロント)	
第4回	毛量調節	シザーズによる毛量調整、セニングによる毛量調整	
第5回	ブローテクニック	スタイルに応じたブローテクニック、仕上げ方	
第6回	スタイリング剤の使い方	スタイリング剤の選定、スタイリング技術	
第7回 ～ 第9回	コンテストスタイル (理容組合)	コンテイトスタイル作成	
第10回 ～ 第13回	コンテストスタイル (専門学校大会)	コンテイトスタイル作成	
【セット・ブロー】			
第1回	カット展開図	スタイルから読み解きダイアグラム作成	
第2回	2セクションカット	応用のカット技法を学ぶ	
第3回	マルチセクションカット	応用のカット技法を学ぶ	
第4回	毛量調節	シザーズによる毛量調整、インナーセニング	
第5回 ～ 第6回	仕上げブロー法	スタイルに応じたブローテクニック、仕上げ方	
第7回 ～ 第8回	スタイリング法	スタイリング剤の選定、スタイリング技術	
第9回 ～ 第12回	コンテストスタイル	コンテストスタイル・デザインウイッグ作成	
第13回	総合まとめ	作品展示・コンテスト・作品撮り	

到達目標	仕上げた作品をコンテストに出展し入賞をめざす。
成績評価	単位認定 課題提出
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	理容実習 (バリカンアート)	必修	39	1.3	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	理容師独自の技術であり頭毛にバリカンでアートを描く技を習得し、デザイン力を養う。								
学習的	理容師に必要な技術を習得し就職後も現場で生きる技術を身につける。								
教科書	オリジナル資料「バリカンアートカタログ」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	バリカンの構造	バリカンの構造や各部の名所の確認	
第2回	バリカンの使い方・操作	バリカンの使い方や種類の知識・操作手順の確認	
第3回	ウイッグでのバリカン訓練	人形を使い実際に操作方法やバリカンの入れ方を学ぶ	
第4回	ウイッグでのバリカン訓練	人形を使い実際に操作方法やバリカンの入れ方を学ぶ	
第5回	スタイルの種類	カタログを見ながらデザインの種類を確認する	
第6回	バリカンでライン設定	ウイッグを使い頭皮にラインを書く	
第7回	直線スタイル作り1	ライン通りに直線のスタイルを作る・バリカンの入れ方に注意する	
第8回	直線スタイル作り2	ライン通りに直線のスタイルを作る・バリカンの入れ方に注意する	
第9回	直線スタイル作り3	ライン通りに直線のスタイルを作る・バリカンの入れ方に注意する	
第10回	絵文字の作り方1	曲線の作り方・特殊デザインの作り方	
第11回	絵文字の作り方2	立体的なバリカンの入れ方・ハサミとのバランス	
第12回	絵文字の作り方3	仕上げの作り方	
第13回	総合まとめ	ウイッグを仕上げる	

到達目標	バリカンアートのデザインを理解する→カットスタイルに合わせた技術を施術できるようにする。
成績評価	単位認定 課題提出
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	特別教育授業	選択	30	1		講義	演習	実習実技
								○	
授業の概要	理容・美容の現場で活用できる外国語やヘアデザインに必要なデッサン・ヘアスタイル画の描き方の習得、身体機能や運動機能を学ぶ体育活動を通して幅広い知識を学ぶ								
学習目的	理容・美容の現場で増えつつある、外国人のお客様へのコミュニケーションの習得やお客様からの要望を叶えるためのデッサン力の習得、また体育活動を通して幅広い知識を学ぶ								
教科書	日本理容美容教育センター「外国語」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回 ∩ 第5回	美術	ヘアデザイン画の作成	
第6回 ∩ 第9回	外国語	海外研修旅行(出入国審査・ショッピング・食事等)での英会話の練習	
第10回 ∩ 第12回	体育①	球技、運動を通してチームワーク、コミュニケーション能力を養う	
第13回 ∩ 第15回	体育②	校内技術大会等を通して技術の向上、競争力を養う	

到達目標	海外研修旅行での英会話でのコミュニケーション能力の習得とヘアデザイン画の作成
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	スペシャル授業	選択	20	0.7		講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	公衆衛生を維持し、社会人としての意識やマナーを身に付ける。								
学習的	理容・美容椅子にすわったお客様の対応。								
教科書	オリジナルテキスト「接客接客」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	サロン実習／接客①	身だしなみ、言葉づかい、技術を行う作業姿勢	
第2回	サロン実習／接客②	カウンセリング	
第3回	サロン実習／接客③	サロンワーク	
第4回	サロン実習／施術①	シャンプーイング	
第5回	サロン実習／施術②	カットイング	
第6回	サロン実習／施術③	カラーリング	
第7回	サロン実習／施術④	スタイリング	
第8回 ↓ 第10回	サロン実習／フォト撮影	フォト撮影	

到達目標	よりよい技術と心をお客様に提供できるような接客をする。
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	メイクアップ技術	選択	60	2		講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	クレンジング～ベースメイク作成、ポイントメイクの美しさを知る								
学習的	ベーシックメイク・アレンジ・メイクの楽しさを知る								
教科書	日本理容美容教育センター「美容理論Ⅱ」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	授業の進め方・道具のチェック&手入れ法	授業を受ける際の注意事項・道具の点検と手入れ法	
第2回	道具の置き方・身だしなみ・ポイントメイクでも	セッティングや身だしなみ、セルフメイクの仕方	
第3回	ポイントクレンジングデモ・相モデル練習	ウィッグを使ったポイントクレンジングの練習と相モデル練習	
第4回	全体クレンジングデモ・相モデル練習	ウィッグを使った全体クレンジングの練習と相モデル練習	
第5回	クレンジング復習・クレンジング相モデル練習	ウィッグを使った全体クレンジングの復習&相モデル練習	
第6回	化粧水デモ・化粧水相モデル練習	化粧水の相モデル練習	
第7回	ポイントメイククレンジング～化粧水相モデル練習	相モデルにてレッスン	
第8回	プライマーデモ・相モデル練習	プライマー用モデル練習	
第9回	ポイントクレンジング～プライマー相モデル練習	スキンケア総復習用相モデル練習	
第10回	コントロールカラーデモ・相モデル練習	コントロールカラーのつけ方と相モデル練習	
第11回	スキンケア～コントロールカラー・ファンデデモ	スキンケア～コントロールカラー相モデル練習など	
第12回	ファンデーション相モデル練習	ファンデーションのつけ方・相モデル練習	
第13回	スキンケア～ファンデ・コンシーラーデモ	スキンケア～ファンデ相モデル練習・カバーの仕方	
第14回	コンシーラー相モデル練習	それぞれに合ったコンシーラー相モデル練習	
第15回	スキンケア～コンシーラー・フェイスパウダーデモ	スキンケア～コンシーラー相モデル練習・パウダーの仕方	
第16回	フェイスパウダー相モデル練習	フェイスパウダーのつけ方相モデル練習	
第17回	スキンケア～フェイスパウダー	スキンケア～フェイスパウダー相モデル練習	
第18回	ハイライト・ローライト・ニュアンスデモ&練習	ハイライト・ローライト・ニュアンスの相モデル練習	
第19回	スキンケア～ベースメイク	スキンケア～ベースメイクのチェック	
第20回	アイブロウデモ・相モデル練習相モデル練習	それぞれに合ったアイブロウの描き方相モデル練習	
第21回	スキンケア～アイブロウ・アイメイクデモ	スキンケア～アイブロウ相モデル練習・アイメイクの仕方	

第22回	アイメイク相モデル練習	それぞれに合ったアイメイクの相モデル練習	
第23回	スキンケア～アイメイク・リップデモ	スキンケア～アイメイク相モデル練習・リップの入れ方	
第24回	リップ相モデル練習	それぞれに合ったリップつけ方練習	
第25回	スキンケア～リップ・チークデモ	スキンケア～リップ相モデル練習・チークの入れ方	
第26回	チーク相モデル練習	チークを入れてフルメイク完成相モデル練習	
第27回 ～ 第30回	スキンケア～フルメイク (タイム管理)	スキンケア～フルメイクまで完成 タイム短縮 モデルを変えて完成	

到達目標	メイクをする楽しさと一人一人違うむずかしさなど、相モデルで技術をする側としてもらう側を認識してやっでの達成感を感じる
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	ヘアモード技術	必修	30	1	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	クラシカルバックバリエーションセットの基礎から応用まで幅広く学び学生ではコンテストや大会などさまざまな場面で活躍できる人材を育成し、卒業後でもレベルアップにつなげられる授業を行う。								
学習的	大会やコンテストなどで上位入賞につなげられる技術を身につける。								
教科書	日本理容美容教育センター「理容実習」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	アイアニング操作	アイロン技術における操作・使用方法を覚える	
第2回	アイアニング基礎	アイロン技術での種類(丸形・平型)の技術指導	
第3回	アイアニング基礎	ウイッグでの熱処理の方法・各部の技術指導	
第4回	アイアニング応用	スタイルに合わせたアイロンの操作方法	
第5回	アイアニング応用	フロントの作り方・操作方法	
第6回	クラシカルバックバリエーションセットの基礎	スタイル作りのカタログや写真の研究	
第7回	クラシカルバックバリエーションセットの基礎	スタイル作りの展開図作成	
第8回	クラシカルバックバリエーションセットの応用	頭部(バック)の作り方・操作方法	
第9回	クラシカルバックバリエーションセットの応用	フロント・トップの作り方・操作方法	
第10回	クラシカルバックバリエーションセットの応用	サイド・バックサイドの作り方・操作方法	
第11回 、 第14回	クラシカルバックバリエーションセット作り	展開図に合わせて、スタイルを作り作品を仕上げる	
第15回	コンテスト・大会のウイッグ完成	アイロン・ブラシを使用し、作品を完成させる	

到達目標	コンテスト・大会のウイッグ完成を目標に上位入賞を目指す。
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	接客・接遇	必修	30	1		講義	演習	実習実技
								○	
授業の概要	社会人に求められる常識的な心得を十分理解させ、マナーに対する知識、態度、技能を身につけさせる。								
学習的	社会人になる前の最終学校として、節度ある学生を育成し、即戦力として活躍できる人材を育てる。								
教科書	オリジナル資料「サロンワーク」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	接客・接遇の応用	電話での対応・カルテの管理・来店時の対応	
第2回	ジョブカフェ(青森県若年者就職支援センター)	就職における面接指導・履歴書の書き方	
第3回	サロンでの実習	受付、対応、マナーの練習と実地訓練	
第4回	サロンでの実習	相モデルでの接客訓練	
第5回 5 第7回	施設でのハンドマッサージ	地域施設での課外授業(ハンドマッサージ)	
第8回	赤十字ボランティア清掃活動	地域清掃、登下校通学路	
第9回	赤十字ボランティア青森マラソン	青森マラソン(給水活動)	
第10回	赤十字ボランティア炊き出し訓練	地域赤十字団との合同炊き出し訓練	
第11回			
第12回	サロンでの実習(応用)①	就職に向けての接客訓練	
第13回			
第14回	サロンでの実習(応用)②	就職に向けての接客訓練(実技試験)	
第15回	まとめ・総合	接客・接遇・ボランティアのまとめ	

到達目標	マナーや接客業の知識とボランティア活動を通して節度ある人材に育成しているか判断する。
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	2学年	総合技術	必修	60	2	○	講義	演習	実習実技
								○	
授業の概要	基本的技術を基に、さらに発展した高度な技術を習得するとともに、最新技術の習得を目指す。集大成としてヘアショーを開催し観客に披露する。								
学習的	2年間の集大成の発表ヘアショーを成功させる。								
教科書	オリジナル資料「過去のヘアショーの資料、DVD」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	メイク①	(ヘアショー用舞台メイク)テーマを決める。モデルを決める。2年次で実習したことや雑誌・ネットなどを参考に決める	
第2回	メイク②	(ヘアショー用舞台メイク)モデルの輪郭・パーツを見ながらテーマに沿って決める	
第3回	メイク③	(ヘアショー用舞台メイク)モデルにメイクをする。色々なメイクをして決める	
第4回	メイク④	(ヘアショー用舞台メイク)モデルのメイクの決定。練習 終わった後のケアをする	
第5回	ネイル①	(ヘアショー用舞台ネイル)テーマに沿ってデザインをきめる。道具の準備等をする	
第6回	ネイル②	(ヘアショー用舞台ネイル)モデルの爪にチップ 形・大きさ合わせる	
第7回	ネイル③	(ヘアショー用舞台ネイル)チップ作成	
第8回			
第9回	セット①	(ヘアショー用舞台ヘア)テーマに沿って、メイク・ネイルが決まったので作る。パターンをいくつか作る	
第10回	セット②	(ヘアショー用舞台ネイル)決定したヘアを作る。テーマに沿っているか話し合いして決める	
第11回	セット③	(ヘアショー用舞台ネイル)練習する	
第12回	セット④	(ヘアショー用舞台ネイル)メイク・ネイルに基づいて作り決定する	
第13回	カラー①	テーマに沿ってブリーチから入る カラーの色を決めて技術に入る	
第14回			
第15回	カラー②	色みを見て完成	
第16回			
第17回	ファッション①	テーマ・メイク・ヘア・ネイル・カラートータル的に見て決める	
第18回			
第19回	ファッション②	小物や装飾品の確認	
第20回			
第21回	映像	必要な素材を探して編集する	
第22回	音楽	場面に合うように編集する	
第23回	演出	細部までチェックを行う	
第24回	振付	音楽に合わせたウォーキング・ポージング	
第25回			

第26回	舞台セット	会場作りとレイアウトの修正	
第27回	写真	撮影のタイミング、ポージング	
第28回 ↓ 第30回	ヘアショー	2年間の集大成を発表する	

到達目標	ヘアショーを成功させる。		
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価		
備考			